令和６年度滋賀県立安土城考古博物館運営懇話会開催の結果

１．日時
　令和７年（2025 年）２月 13 日（木）10 時～12 時
２．会場
　滋賀県立安土城考古博物館　会議室
３．出席委員
　末松史彦委員、坂田孝彦氏（代理出席）、白嵜治委員、木下達文委員、國賀由美子委員、佐藤亜聖委員、岩﨑奈緒子委員、勝身真理子委員、鵜飼裕紀委員
　（欠席）西川邦臣委員
４．内容
（１）報告事項
　①前回（令和５年度）運営懇話会における意見とその対応状況について
　②令和６年度事業の実施状況について
　③令和７年度事業計画（案）について
（２）その他
　①安土城考古博物館のリニューアルについて

館長挨拶　リニューアル工事に伴い、３ヶ月間の休館があり、特別展、企画展が開催できなかった。３月１８日に第一常設が新しくシアターとしてオープンする予定。県主導でシアターは制作されたが、これを管理運営していくことが、我々指定管理者の業務であると考えている。忌憚のない意見をいただきたい。

■主な意見
(博物館の PR)
・　岐阜関ケ原古戦場記念館のモニターで当館を広報され、その前で入館の順番待ちをする多くの方が興味深く眺めておられる。一方パンフレットはあまり持っていかれないので、モニターの近くに置くとか、意外と近いことを関ケ原町観光協会にも PR するなど改善の余地はあると思う。
・　アンケートでは、県内利用者の割合が少ない。専門家や関心のある人が集まる講座ではなく、すそ野を広げるため、市町の博物館、資料館、図書館やショッピングセンターなどと連携し、子供や親子連れ向けにやさしいイベントや出前講座等を開催してはどうか。
・　学校活動で火起こし体験や実際に博物館を見学することは非常に貴重な機会であり、

学校からの来館を増やすことが子供たちにとって大事であり、月一回開催される市内の校長会や社会科主任会で PR してはどうか。また、安土のまち協がやられた町内の史跡を廻ってポイントを貯めるイベントや、子どもは歴史好きが多いので、博物館に来て調べたり、発表するなど子どもが活躍できる場を企画してはどうか。

（博物館の役割と学芸員の業務）

- 春と秋の特別展は、県の方針で安土城をテーマにということだが、県の方針に指定管理者の博物館が応じて展示をやるのか、主催は博物館ではないのか。
- 問合せ等への対応は時間を要し、啓発普及の観点から博物館が果たしている役割は大きい。前回その内容を年報に記載するよう指摘したが、配布された年報は 1 年前の実績であり、今年度の会議には 12 月時点での状況も報告してほしかった。
- 催し物の記載だけではなく、展示の見せ方や学芸員がどのような活動をして、どのようにバックヤードが動いているのかを見せることが、博物館の活動として重要である。博物館の活動の基盤は、調査研究であり、「紀要」を発行したではなく、紀要の内容、調査内容、講座の内容を「年報」にリスト化して報告してほしい。
- 前回発言した収蔵品の保存、修理の状況について、年報に記載したとの報告があったが、今回の報告の中に入れていただきたい。
- 他の施設では、展覧会の開催に際しどのような調査をし、どのような外部資金を調達したかなども報告している例もあり、バックヤードの学芸員の地道な活動を見える形で報告してほしい。
- 土日にこれだけ講座等を開催すると職員の負担になるので、受講者数が 10 人程度の講座や城郭探訪等では引率面の配慮から定員が少ないのはわかるが、参加者が 3 人ではもったいない。開催回数を少なくすれば参加者も多くなると思うので検討してはどうか。

（今後に向けた取組み）

- リニューアルすれば来館者は増えるが、15 分の映像ではすぐ飽きられる。滋賀はスゴイと言われるために、次をどのようにリニューアルないし追加していくのか、周辺の魅力に繋げていくための仕掛けをどうするのかなど広い視点で考えることが重要である。
- 博物館へ来ない人のアンケート、来ない人へどのようにアプローチするのかが、マーケッティングで重要である。初心者でもわかる展示の事前情報が、漫画のあらすじのようにあれば、入館に繋がるのではないか。
- アンケート結果は、肯定的な意見、否定的な意見、要望に分けて整理し、課題点も解決可能なものと可能でないものを区分し、解決できるものは次年度の事業のここでするなどのコメントも必要である。
- 講座を中継すべき。ハイブリッドが無理なら、オンデマンドで視聴できるよう、時代に即し、博物館や文化財の世界もデジタル化を進める必要がある。
- 県で埋蔵文化財センターの在り方を検討されているが、埋蔵文化財センターは文化財保護行政の一つの組織であるが、博物館は埋蔵文化財を考古資料として、展示、研究する

唯一の施設であるが、当博物館で考古資料を展示しにくい状況となり、埋蔵文化財センターとのかかわりも含めた議論を注目したい。

- この人員で、これだけの事業を一所懸命実施していることを評価すべきだ、余裕もないだろう。3 年に 1 回ぐらいの頻度で第三者評価をしてもらう方法もあるが、事務負担が大きいので、考古から安土城に転換する今、何が足りないのか評価してもよい。
- 可能であれば、仕事量を算出し、仕事量の配分、人員配置など他の施設との比較や、設置当初初の人員体制と現在との比較など、これだけしわ寄せがあることを見える化させることが大切だと思う。
- 県立 5 館連携も水と油ではなく、互いに連携して winwin の関係で、県民の利益にならないといけない。
- ３月１８日オープンを迎え、博物館は変わる。指定管理者の制約がある中、各委員からのご意見を踏まえ、円滑な博物館運営、来館者増に向け取り組まれ、滋賀の文化の拠点、地域の拠点となるよう努力願いたい。